



2025年2月3日

Osaka Metro Group

2024年度（2025年3月期）第3四半期決算

1. 2024年度第3四半期（10-12月）連結損益計算書（総括）

第2四半期に続き、第3四半期も前年同期から増収増益を達成。
営業収益は、鉄道の運輸収入などの増加により、34億円の増収。
営業利益は、万博関連対応に伴う委託費・人件費の増加や万博に向けた車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加があったものの、営業収益の増加により、5億円の増益。

（単位：億円）

【参考】

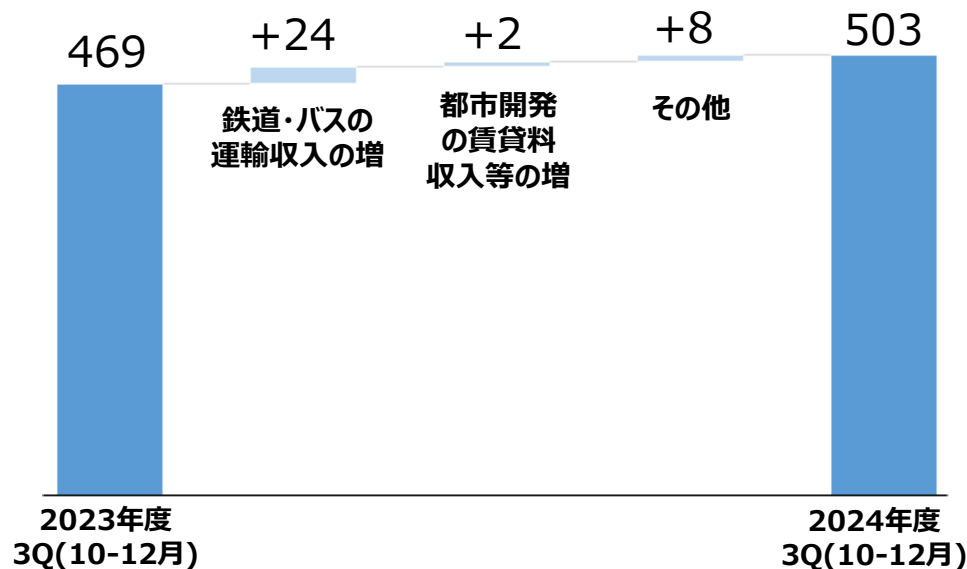
	2024年度 3Q（10-12月）	対前年同期 増減		2024年度 3Q累計	対前年同期 増減
営業収益	503	+34 (+7.3%)		1,522	+144 (+10.4%)
営業費用	389	+29 (+8.2%)		1,169	+97 (+9.0%)
営業利益	115	+5 (+4.4%)		353	+47 (+15.2%)
営業外損益	1	▲2		▲1	▲7
経常利益	116	+3 (+2.4%)		352	+40 (+12.6%)
特別利益	8	+8		13	▲0
特別損失	8	+8		11	▲2
法人税等	35	+1 (+2.9%)		109	+14 (+14.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	80	+2 (+3.1%)		242	+28 (+13.1%)

2. 2024年度第3四半期（10-12月）営業収益・営業利益の増減要因

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入および都市開発事業の賃貸料収入の増加などにより増収。
営業利益は、減価償却費や委託費・人件費の増加等があったものの、営業収益の増加により増益。

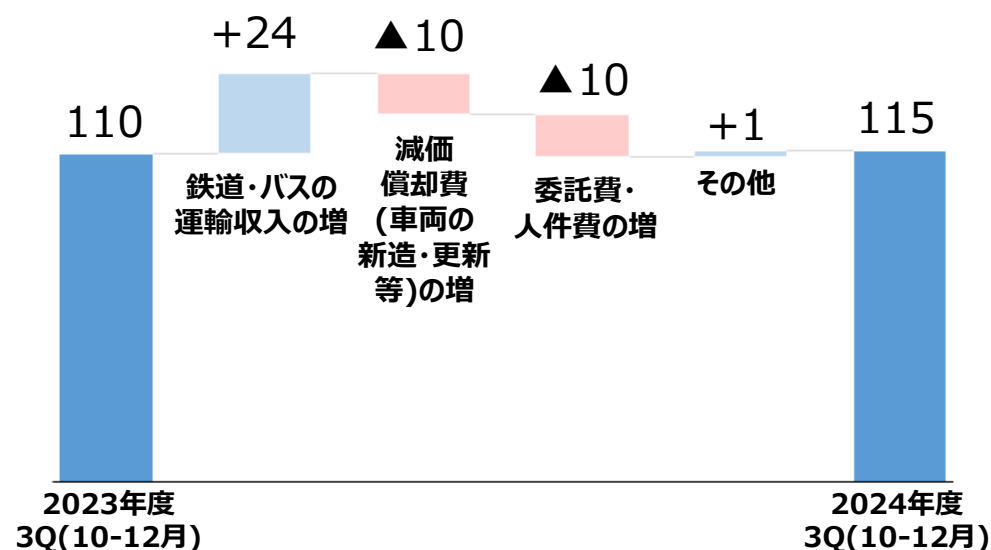
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



3. 2024年度第3四半期（10-12月）セグメント別の状況（総括）

鉄道・バスの運輸収入が増加した交通事業をはじめ、都市開発・広告事業は、増収増益を達成。マーケティング・生活支援サービス事業は、地下街や駅ソトの直営店舗の収益貢献等により増収となったものの、地下街リニューアルに係る費用の発生等により、増収減益。

（単位：億円）

	2024年度 3Q（10-12月）		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	503	115	+34（+7.3%）	+5（+4.4%）
交通事業	466	109	+31（+7.0%）	+7（+7.3%）
鉄道事業	437	107	+31（+7.7%）	+7（+7.1%）
バス事業	38	2	+4（+12.3%）	+0（+17.3%）
セグメント内取引消去	▲9	(-)	▲5（-）	(-)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	31	1	+1（+3.0%）	▲3（▲73.3%）
都市開発事業	9	2	+2（+30.4%）	+0（+21.8%）
広告事業	11	2	+1（+8.4%）	+0（+5.5%）
その他	▲13	0	▲0（-）	▲0（▲87.9%）

【参考】

	2024年度 3Q累計		対前年同期 増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	1,522	353	+144（+10.4%）	+47（+15.2%）
交通事業	1,362	320	+79（+6.2%）	+34（+11.9%）
鉄道事業	1,276	318	+81（+6.8%）	+38（+13.6%）
バス事業	108	2	+7（+7.0%）	▲4（▲61.2%）
セグメント内取引消去	▲23	(-)	▲9（-）	(-)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	92	7	+4（+4.6%）	▲3（▲26.0%）
都市開発事業	77	20	+59（+319.9%）	+15（+305.8%）
広告事業	29	5	+3（+10.8%）	+1（+15.4%）
その他	▲37	0	▲1（-）	▲1（▲77.9%）

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

4-(1). 交通事業の状況

営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の堅調な増加や沿線観光資源の発掘・情報発信、各種キャンペーンなどの増収施策により、31億円の増収。

営業利益は、万博関連対応に伴う委託費・人件費の増加や万博に向けた車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費の増加があったものの、営業収益の増加により7億円の増益。

(単位：億円)

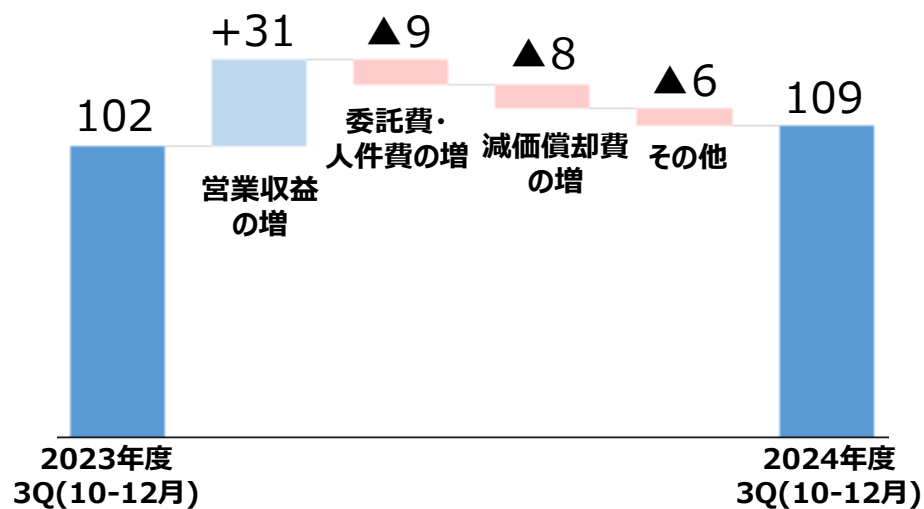
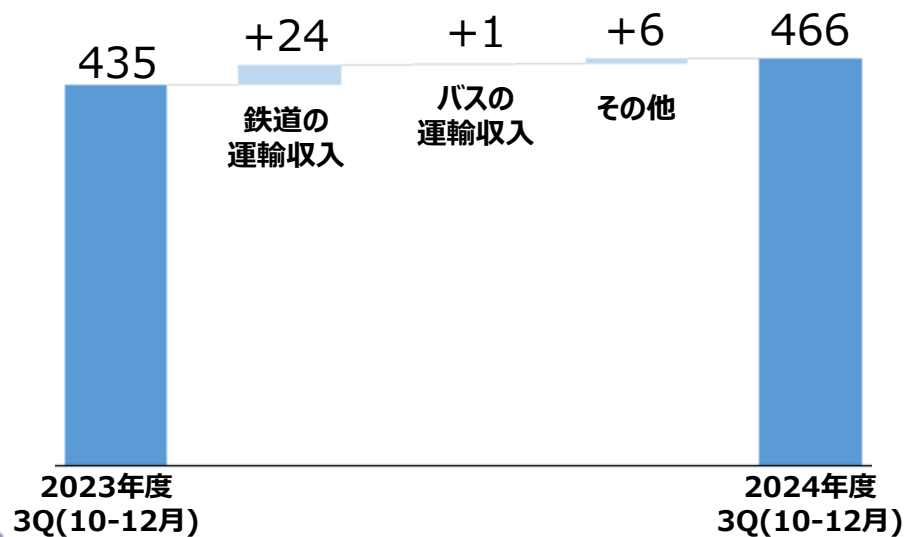
	2024年度3Q（10-12月）	対前年同期増減		【参考】 2024年度3Q累計	対前年同期増減	
営業収益	466	+31	(+7.0%)	1,362	+79	(+6.2%)
営業利益	109	+7	(+7.3%)	320	+34	(+11.9%)

(単位：億円)

営業収益

(単位：億円)

営業利益



4-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

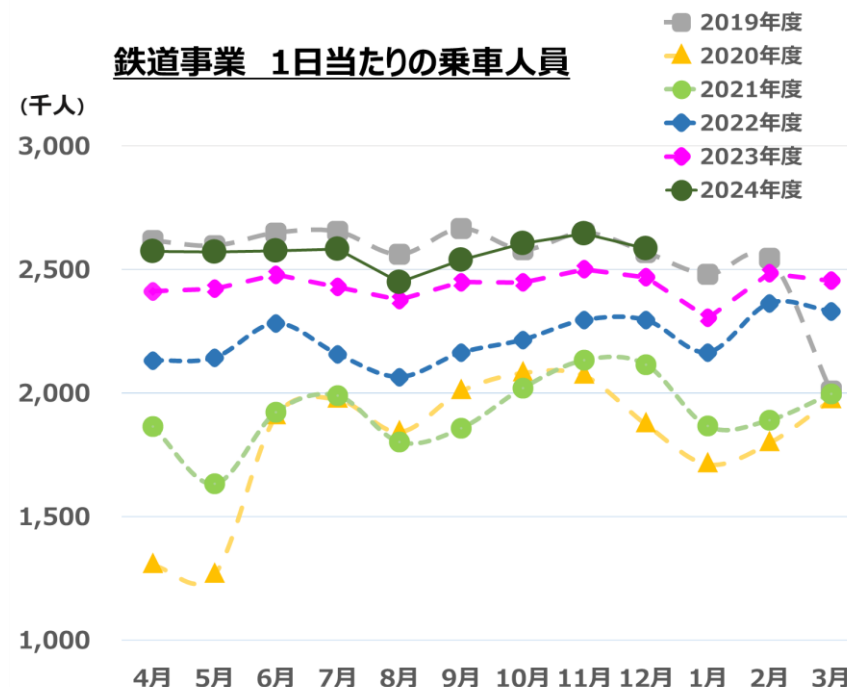
前年同期に比べ、乗車人員は13百万人（+5.6%）増加。
 運輸収入は、乗車人員の増加に伴い、24億円（+6.2%）増加。
 9ヶ月累計でも同様の傾向であり、乗車人員は35百万人増、運輸収入は66億円増。

（単位：千人、億円）

【参考】

		2024年度 3Q（10-12月）	対前年同期 増減	2024年度 3Q累計	対前年同期 増減
乗車 人員	合計	240,223	+12,788 (+5.6%)	706,542	+34,761 (+5.2%)
	定期	118,886	+4,657 (+4.1%)	354,739	+12,869 (+3.8%)
	定期券	84,523	+4,910 (+6.2%)	252,971	+13,750 (+5.7%)
	マイスタイル	34,364	▲253 (▲0.7%)	101,768	▲880 (▲0.9%)
	定期外	121,336	+8,131 (+7.2%)	351,803	+21,892 (+6.6%)
運輸 収入	合計	409	+24 (+6.2%)	1,200	+66 (+5.8%)
	定期	162	+5 (+3.3%)	486	+17 (+3.7%)
	定期券	104	+6 (+5.9%)	312	+19 (+6.5%)
	マイスタイル	58	▲1 (▲1.1%)	174	▲2 (▲1.1%)
	定期外	247	+19 (+8.1%)	715	+49 (+7.3%)

鉄道事業 1日当たりの乗車人員



4-(1). 交通事業の主な取り組み

各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取り組みやお客さまサービスの向上の取り組みと共に、安全・安心の取り組みを着実に推進。

また、将来の最適な移動サービス体制確立に向けた取り組みを実施。

増収に向けた取り組み

<沿線情報の発信、タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」の発行など、国内や海外インバウンドへ、沿線情報の発信を強化。人気アーティストなどとタイアップし、沿線を回遊して楽しんでいただくデジタルスタンプラリーを実施。

<大阪シティバス イベント実施>

バスを利用したおでかけの機会創出のため、ハロウィンやクリスマス期間限定のバス1日乗車券を発売。



お客さまサービスの向上

<タッチ決済>

2025年大阪・関西万博に向けたキャッシュレス・チケットレス改札の取り組みとして、対応するクレジットカードや設定したスマートフォン等で地下鉄が利用できるタッチ決済サービスを2024年10月29日から開始。



将来に向けた取り組み

<自動運転EVバス>

将来の自動運転レベル4走行を見据えた自動運転レベル2の森之宮・京橋周遊バスの運行を2024年11月10日から開始。三大都市圏の市街地で約1年という長期間で商用運行を行う大型の自動運転バスは初。



<空飛ぶクルマ>

大阪・関西万博後の空飛ぶクルマの社会実装を見据え、(株)SkyDriveとOsaka Metroが「新大阪・梅田」「森之宮」「天王寺・阿倍野」「ベイエリア」の4つのエリアを重要エリアとして選定し、それぞれを結んだ「大阪ダイヤモンドルート構想」を発表。

安全・安心の取り組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく天満橋駅ほか4駅で供用開始。(2025年度末までに全駅設置完了を目指し谷町線及び四つ橋線を整備中。)



<鉄道運転無事故表彰受賞>

2024年10月15日に「令和6年度 鉄道関係近畿運輸局長表彰」を受賞。

4-(1). 交通事業における万博への主な取り組み

2025年に開催される大阪・関西万博の成功に向けて、輸送力増強の取り組み、お客さまサービス向上の取り組みを着実に推進すると共に、機運醸成の取り組みを推進。

輸送力増強の取り組み

<新型車両>

大阪・関西万博にお越しの多くのお客さまの乗車に対応できるよう、中央線新型車両（400系）を2列車導入。



<夢洲延伸工事>

2024年12月19日から開業検査を実施。
(2025年1月7日に検査完了。)

<夢洲駅>

2025年1月19日に夢洲駅開業。
2025年大阪・関西万博会場へ
直接乗り入れる唯一の鉄道アクセスルートが誕生。



お客さまサービスの向上

<e METROアプリでの混雑状況の見える化>

大阪・関西万博の主要アクセスルートである御堂筋線・中央線の車内の混雑状況の見える化機能を追加。

機運醸成の取り組み

<未来モビリティ体験型テーマパーク>

森之宮車両工場跡地を活用し、
未来の交通や生活をリアルとバーチャルで
体験しながら楽しく学べるテーマパーク
「e METRO MOBILITY TOWN」を
2024年11月30日にプレオープン。
(2025年1月11日にグランドオープン)



<オンデマンドバス運行（森之宮地区）>

2024年11月29日から、
「e METRO MOBILITY TOWN」への
アクセス及び森之宮地区周辺エリアに
おける回遊性・周遊性の向上のため、
森之宮エリアでオンデマンドバスを期間限定で運行。



<中央線新メロディ制作>

万博会場の夢洲駅に来場者を運ぶ中央線の新メロディが完成し、
2024年11月13日の初発から中央線の各駅で使用開始。

4-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

駅ソトの直営カフェレストランの開業や地下街の賃貸料収入の増加により増収となったものの、地下街リニューアルに係る費用の発生等により、減益。

駅ナカではスマートロッカーを利用した手荷物ホテル配送サービスを開始し、地下街では新規直営店舗を開業するなど、駅周辺の利便性の向上とにぎわいの創出を推進。

(単位：億円)

【参考】

	2024年度3Q (10-12月)	対前年同期増減	2024年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	31.0	+0.9 (+3.0%)	92.0	+4.0 (+4.6%)
営業利益	1.0	▲2.9 (▲73.3%)	7.3	▲2.6 (▲26.0%)

(単位：億円)

営業収益



駅ナカ

<2025年大阪・関西万博に向け、手荷物ホテル配送サービスを開始>

2024年12月、スマートロッカーを利用した「KoKoHub (ココハブ) by Osaka Metro」を新大阪駅、本町駅で開始。ロッカーに預けた手荷物が、当日の夕方までに宿泊先のホテルへ配送されるため、手ぶらでの観光・移動が可能となる。



地下街

<直営店舗オープン>

駅近の利便性を活かし、お客さまの多様なニーズにお応えできる店舗として、ブランド古着買取販売店「Kindal (カインドオル) なんばウォーク2号店」、100円均一ショップ「Can★Do NAMBA なんなん店」をそれぞれ10月オープン。



4-(3). 都市開発事業の状況と主な取り組み

前年度下期に竣工した新規物件のほか、本年度に開業した商業施設による賃料収入の増加などにより、増収増益。

新築賃貸マンションや新築分譲マンション、新たな商業施設の開発を継続して推進。

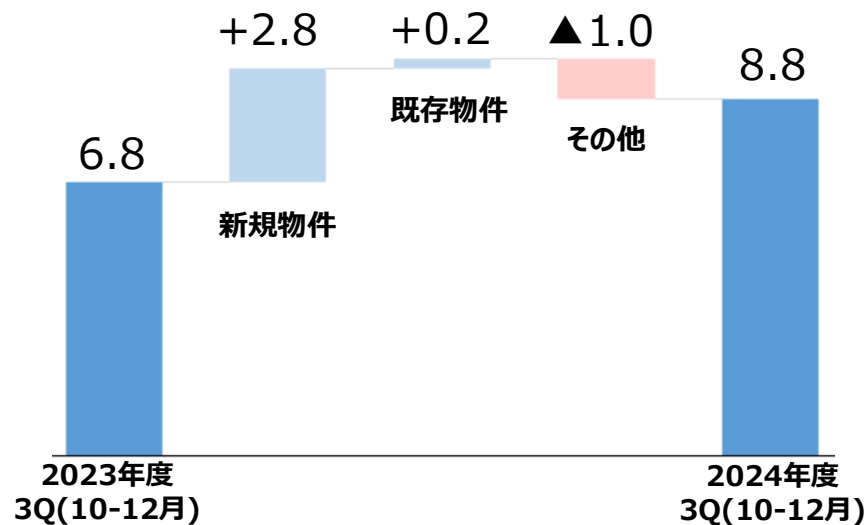
(単位：億円)

【参考】

	2024年度3Q（10-12月）	対前年同期増減	2024年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	8.8	+2.1 （+30.4%）	77.1	+58.7 （+319.9%）
営業利益	2.4	+0.4 （+21.8%）	20.4	+15.4 （+305.8%）

(単位：億円)

営業収益



分譲マンション

<メトライズ森ノ宮中央>

Osaka Metroの新築分譲マンションブランド「METRISE(メトライズ)」シリーズ第2弾。
中央線・長堀鶴見緑地線
森ノ宮駅徒歩5分、
地上15階・総戸数98戸。
2024年12月までに全戸契約完売。
(2025年4月以降入居開始予定)



4-(4). 広告事業の状況と主な取組み

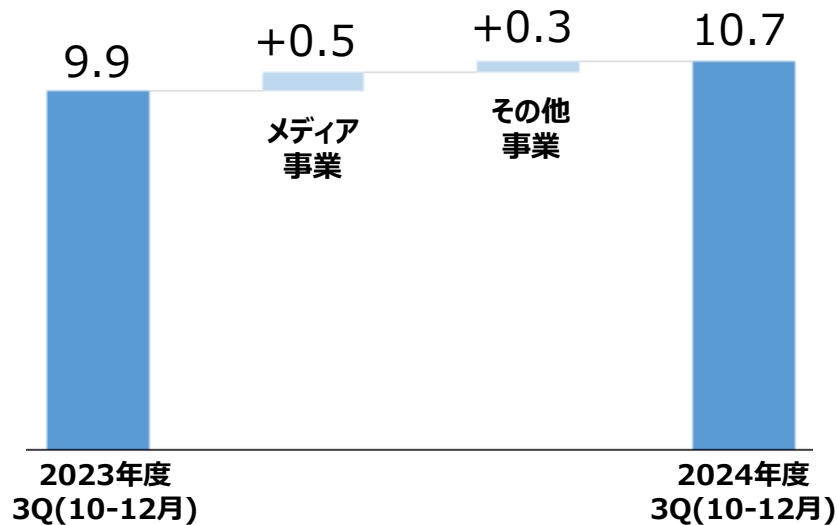
新規媒体の設置や積極的な販売活動に取り組んだことにより、増収増益。
万博の開催に向けた主要商品の販売や交通広告の価値向上に向けた取組みを実施。
ローカルガイド事業「Osaka JOINER」などにより、インバウンド需要を確実に獲得。

(単位：億円)

	2024年度3Q（10-12月）	対前年同期増減	【参考】	2024年度3Q累計	対前年同期増減
営業収益	10.7	+0.8 （+8.4%）		29.3	+2.9 （+10.8%）
営業利益	1.9	+0.1 （+5.5%）		4.9	+0.7 （+15.4%）

(単位：億円)

営業収益



メディア事業

<梅田ADウォールの設置>

梅田駅北改札内の東西壁面をクライアントニーズが高い、長さ約30mの大型シートメディアにリニューアル。



新規事業

<Osaka JOINER>

海外旅行者向けローカルガイド事業「Osaka JOINER」が、優れたインバウンド事業の取り組みを表彰する「第7回 はなやかKANSAI 魅力アップアワード」で特別賞を受賞。



5. 連結貸借対照表

投資は、可動式ホーム柵の設置や車両新造等の安全投資及び都市開発案件を中心に574億円実施。

(単位：億円)

	2024年度 3Q末	2023年度末	増減	主な増減要因
資産	10,034	9,916	+118	
流動資産	552	598	▲46	現金及び預金 ▲23
固定資産	9,482	9,318	+165	投資 +574 減価償却費 ▲365
負債	4,093	4,108	▲15	
流動負債	2,081	2,363	▲282	未払金 ▲283
固定負債	2,012	1,745	+267	長期借入金 +250
純資産	5,941	5,807	+134	
現金及び 現金同等物	198	221	▲23	
有利子負債	3,292	3,094	+197	長期借入金 +250 コマーシャルペーパー ▲50
ネット有利子負債	3,094	2,874	+221	
自己資本	5,869	5,739	+131	



**Osaka Metro
Group**